

## 三池炭鉱と三池港

世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である三池炭鉱・三池港には、三池港と専用鉄道敷の他に三池炭鉱 宮原坑、同 万田坑の2つの構成要素があります。この三池炭鉱の出炭量が飛躍的に伸びたことが、三池港築港の背景にあります。

明治政府から三池炭鉱の払い下げを受けた三井組は、三池炭鉱の近代化を進めました。

宮原坑(1898(明治31)年)、万田坑(1902(明治35)年)などを新たに開坑し、蒸気機関による排水設備や巻揚機、電動により排気を行う扇風機などを積極的に導入することで、出炭量を飛躍的に高めました。

大型船による石炭の積み出しを可能にした三池港を開港し、各坑口と港を結び、石炭や物資を運ぶ炭鉱専用鉄道を敷設し、輸送面からも効率化を図りました。

### ★宮原坑

宮原坑は、三井買収後の1898(明治31)年に開坑されました。イギリス製デビーポンプを備え坑内排水を行うとともに、明治期から昭和初期にかけて年間40～50万トンを出炭しました。現存する第二堅坑櫓は国内現存最古の銅製櫓です。

【国重要文化財・国史跡】



### ★万田坑

宮原坑に次いで1902(明治35)年に開坑された、明治期から昭和中期にかけての三池炭鉱の主力坑口です。2か所の堅坑坑口や、堅坑櫓、巻揚機室など第二堅坑施設を中心とした建造物が現存し、明治期の炭鉱景観を良好に残しています。

【国重要文化財・国史跡】



### －三池港発展の立役者－ 團琢磨



大牟田市  
石炭産業科学館提供

三池炭鉱の発展に尽力した團琢磨は、「石炭山の永久などということはありません。築港をやれば、そこにまた産業を興すことができる。築港をしておけば、いくらか百年の基礎になる。」という確固たる信念を持ち、三池港を築いたといわれています。

それから100年以上が過ぎ、三池炭鉱は閉山しましたが、三池港は重要港湾に指定され、福岡県南部の広域的物流拠点となっています。

また、国際コンテナ定期航路の就航により、国際物流拠点としても広く知られるようになりました。

三池の未来を見据えた團琢磨の思いを、今も多くの船が往来する三池港から感じ取ることができます。

### 広域 MAP



#### アクセス

- 電車・バスでお越しの場合
  - ・JR／西鉄大牟田駅⇒西鉄バス「大牟田駅前」⇒「三川町一丁目」徒歩約10分
  - ・JR／西鉄大牟田駅⇒西鉄バス「大牟田駅西口」⇒「三池港」徒歩約5分
- 車でお越しの場合南関 I.C.から約16km

#### 三池港展望所利用案内

【開場時間】 終日

普通車・大型車駐車可

【問 合 せ】

大牟田市観光おもてなし課  
TEL:0944-41-2750 FAX:0944-41-2764

入場料  
無料

### 「エリア7三池を」 さらに知るために

三池炭鉱・三池港  
ガイダンス施設 大牟田市石炭産業科学館

【住 所】 〒836-0037  
福岡県大牟田市  
岬町6-23

【T E L】 0944-53-2377

【開館時間】 9:30～17:00

【休 館 日】 毎週月曜日  
(月曜が祝日の場合は次の平日)  
12月29日～1月3日

【観 覧 料】 常設展示室は有料



### 三池港とは

三池港は、上空から見ると鳥が翼を広げたような優美な形をした港湾です。三池炭鉱で産出された石炭を国内外へ搬出するために1908(明治41)年に造られました。

19世紀の半ばから20世紀の初頭にかけて、日本は製鉄・製鋼、造船、石炭産業という重工業分野において、急速な産業化を達成しました。中でも石炭は、製鉄に必要なコークスの原料として、また、蒸気機関を動かす燃料として用いられ、様々な場面で重宝されました。わずか50年という短い期間で産業革命を成し遂げたことは、世界でもまれなことであり、その過程を証明する資産として「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は世界遺産に登録されました。

三池港は、その構成資産「三池炭鉱・三池港」の一部として、世界遺産の顕著な普遍的価値に貢献しています。



